

「小さな拠点」づくりHub in 阪南市 住民主体の地域づくりの支え方

— 阪南市社会福祉協議会に学ぶ — 開催概要

● 開催要領

- 開催日時 2025年12月11日(木)～12日(金)
- 開催場所 大阪府阪南市
- 参加者
 - ・行政関係者（都道府県）
 - ・行政関係者（市区町村）
 - ・社会福祉協議会
 - ・地域活動組織
 - ・民間企業
 - ・学生
 など13名

● プログラム

[1日目] 導入・フィールドリサーチ

11:00	導入 ・団体及び活動紹介 ・参加者紹介、相互理解	阪南市社会福祉協議会が取り組む、住民主体の地域づくり実践や中間支援組織の役割について学びます。
14:00	フィールドリサーチ① ・株式会社漁師鮮度 / みんなの食堂	漁業と福祉の分野を横断した取組について、実践されている方々にお会いしヒアリングします。
15:30	フィールドリサーチ② ・あたごプラザ協議会 / 舞校区福祉委員会 / 舞校区ミライ会議	住民主体の地域拠点運営の現場から、地域の支え合いや世代間融合についてヒアリングします。
17:00	終了（希望者はその後懇親会（会費制））	

[2日目] 意見交換

10:00	振り返り ・現場体験の振り返り、考察 ・意見交換	1日目の学びを振り返り、今後の実践につなげていくためのポイントや課題の乗り越え方について、参加者間でシェア、議論します。
12:00	終了・解散	



● 阪南市社会福祉協議会の活動紹介

● 「住民主体の地域づくりの考え方」

阪南市社会福祉協議会 猪俣健一氏・熊抱潤氏

(1) 地域福祉とは

- 社会福祉協議会：地域福祉の推進を目的とする団体。社協の役割は住民主体における“推進装置”であり“盾”である
- 住民自治：地域コミュニティレベルでは、地縁型から「多様な主体を含むプラットフォーム」へと変化している
- 社協の仕事：困りごとを受け止め支援する“地域福祉”とボランティア・地域活動を応援する“地域づくり”の2つ

(2) 地域づくりと中間支援

- 地域づくりにおける地域住民と専門機関の違いを、立ち位置、行動原理、視点、強み、評価の視点で比較

(3) 阪南市における地域づくり実践

- 4つのステップ、4つのサイクルで進める中間支援
- 地域づくりの発展過程：「組織化」→「基礎的活動普及」→「活動・プロジェクト開発」→「地域ネットワーク」の4ステップ
 - 地域住民主体実践の循環過程：「学ぶ・知る・気づく」→「話し合う」→「ビジョンを描く」→「実行する」の4サイクル

(4) 具体的な地域づくりの実践

- 組織化：校区(地区)福祉委員会の組織化 = 協議体×活動実施組織
- 基礎的活動：小地域ネットワーク活動 = 独居高齢者への声掛け訪問(福祉×社会教育)、まちなかサロン・カフェ(7つの機能)など
- プロジェクト：ひとりの声、思いから生まれたプロジェクト = こども福祉委員、少年院ボランティアなど
- 地域ネットワーク：地域共生社会 = 庁内連携推進会議、地域福祉研修

● フィールドリサーチ

● 主に活動者へのインタビューを通して、住民主体の地域づくり実践とは何か、中間支援の役割などについて学ぶ

(1) 漁業と福祉の分野を横断した魚福連携の実践

株式会社漁師鮮度×阪南市社協

- **活動のきっかけ**：地域包括職員が農福連携の活動中に、漁師のつぶやき「漁業でも福祉と一緒になんかできたらなあ」をキャッチしたことから始まる
- **活動への発展**：社協による福祉と漁業のつなぐ場の設定(農福連携会議)
- **活動紹介**：漁港を拠点とした居場づくりの活動として、ひきこもりの若者の受入れ、少年院ボランティアの受入れ、みんなの食堂等
- **気づき・学び**：漁業・福祉それぞれの課題を知ること、活動のキーマンを見つけ支える、それぞれの得意を活かした活動支援・役割分担など

(2) 幼稚園跡施設を活用した住民主体の地域拠点運営から、住民による支え合い活動とまちづくり協議会による世代間融合

あたごプラザ協議会・舞校区福祉委員会・舞ミライ会議×阪南市社協

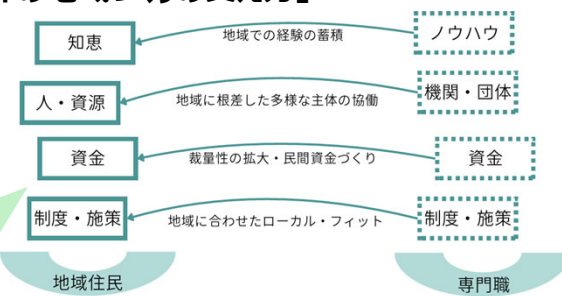
- **活動のきっかけ**：幼稚園跡地を活用した地域活動拠点が得られたこと
- **活動への発展**：住民の声を住民がキャッチ、対話を大切に活動を展開
- **活動紹介**：あたごプラザ協議会による地域拠点「あたごプラザ」の運営、舞校区福祉委員による居場所づくりと支え合い活動「舞シニアサポート」、多世代交流プラットフォーム「舞ミライ会議」を中心とした「舞っ子食堂」など
- **気づき・学び**：活動拠点・地縁組織のあり方、住民の声を拾い地域・住民の課題・ニーズを知ること、徹底した話し合いなど

● 意見交換

● 話題提供「阪南社協の住民主体の地域づくりの支え方」

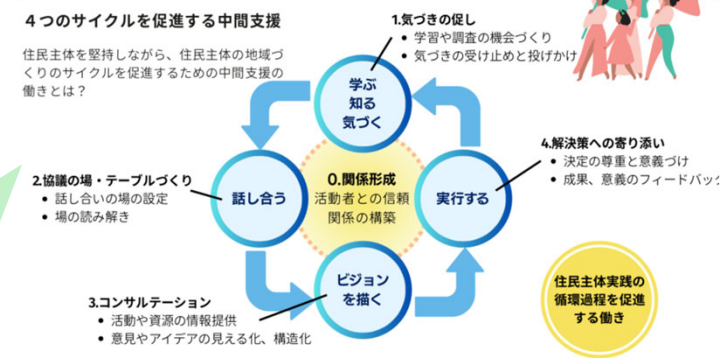
➢ 住民主体の天秤のバランス：

住民主体の地域づくりを支えるには、専門職の専門性より**地域住民の主体性が大切**。専門職がするのではなく、「専門性の地域移譲」によって地域の力（＝自治力）に変えていく。



阪南市における住民主体実践の循環過程「学ぶ・知る・気づく」→「話し合う」→「ビジョンを描く」→「実行する」の4サイクルを促進する中間支援

住民主体のサイクルを促進する働き



● 意見交換 現地ワークからの「気づき」「学び・活用したいこと」

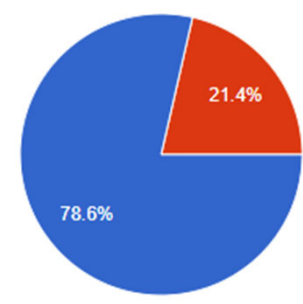
- **気づき**：地域活動の支援者のあり方・役割、キーパーソン的重要性、他分野連携による多角的な視点、関係づくりの考え方など
- **学び・活用したいこと**：具体的な提案を押し付けるのではなく「情報の提示」に留める、誰もが参加しやすい居場所・場づくり、活動のキーパーソンの発掘、住民の意見の吸い上げ方、中間支援者の立ち回り方など

● 参加者振り返り：住民主体の地域づくりを支えるポイントの考察

- 中間支援者としての支え方、関わり方、役割への理解が進んだ
- 情報やノウハウの押し付けではなく、住民の主体性を促す情報提示
- 他分野・多世代の誰もが参加しやすい話し合いの場づくり
- 活動者との信頼関係の構築する徹底した地域への寄り添い姿勢

● 参加者アンケート結果

● 本事業はあなたの活動・事業に役経つ情報や学びがありましたか。



- 大いに役立つ情報や学びがあった
- ある程度、役立つ情報や学びがあった
- あまり情報や学びを得られなかった
- まったく役に立たなかった

【参加者回答から】

社協は住民主体の活動を活性化させる重要な役割であると気づいた

福祉の視点から見るまちづくりについて知見を広げられたことはとても身になるものになった

